令和8年度　玄海学園運営協議会〔第1回〕議事録

1　目的

○　令和8年度の玄海学園の経営方針をもとに、令和7年度までの玄海学園の取組、その成果について共有し、目指す子供像の実現に向けた本年度の取組についての共通理解を図る。

2　日時　　令和8年6月9日（火）15:00～16:50　（14:50　受付）

3　会場　　宗像市立玄海小学校　多目的室　〒811-3502　宗像市江口965

4　日程及び内容　　全体進行：佐々木主幹教諭　記録：出田主幹教諭

時間	内容
15:00	1　開会行事 ○はじめの言葉 （1）委嘱状交付　　宗像市教育委員会　教育部　部長　市場　志郎　様 代表　玄海地区コミュニティ運営協議会会長　中野　和久様 （2）小中一貫コミュニティ・スクールについて（説明） 宗像市教育委員会　指導主事　濱尾　潤　様 地域教育連携室　参事兼コミュニティ・スクール係長　荒木　恵理　様 （3）玄海学園事務局校校長挨拶　宗像市立玄海小学校　校長　福田　晋 （4）宗像市学園運営協議会規則、玄海学園運営協議会運営要領について （5）学園運営協議会委員、学校職員、教育委員会の紹介【自己紹介】 （6）役員選出 （7）日程説明
15:40	2　説明・熟議 【説明1】令和7年度までの玄海学園の取組について ○質疑応答 【説明2】令和8年度の玄海学園の取組について （1）令和8年度「学園経営要綱」ならびに学校関係者評価について （2）令和8年度「玄海学園運営協議会年間計画」について 【熟議】 「令和8年度玄海学園の取組と令和7年度学校関係者評価から見える課題について」 【まとめ】 福岡教育大学教職大学院　特任教授　野口　博明　様
16:35	3　閉会行事 ○教育委員会挨拶　宗像市教育委員会　　指導主事　濱尾　潤　様 ○学園長挨拶　　宗像市立玄海中学校　校長　南　直純 ○諸連絡

【　開会行事　】

15:00～15:40

○はじめの言葉

（1）委嘱状交付

宗像市教育委員会　教育部　部長　市場　志郎　様

代表　　玄海地区コミュニティ運営協議会会長　　中野　和久 様

市場様：ごあいさつ

・玄海学園では、コミュニティがつながり学園間の密な関係がある。

・子供たちの自信・安心につながる活動と支援を共有する。熟議を通して情報の共有、さらなる活動推進をしてください。

（2）小中一貫コミュニティ・スクールについて（説明）

宗像市教育委員会　指導主事　濱尾　潤　様
地域教育連携室　参事兼コミュニティ・スクール係長　荒木　恵理　様
・学園運営協議会とは、「地域の方が当事者として学校運営にかかわる仕組み」
・社会総がかりで行うこと。
・玄海学園の概要図、協働活動による効果、宗像市学園運営協議会規則ー今年度変更あり
　学園Coが不在でも、統括推進委員さんの存在が大きい。
（3）玄海学園事務局校校長挨拶
　　宗像市立玄海小学校　校長　福田　晋
転換期である。これからの時代を生きる子供たちは自分の人生を切り開く、自分の手で作ることが必要。
（4）宗像市学園運営協議会規則、玄海学園運営協議会運営要領（案）について
（5）学園運営協議会委員、学校職員、教育委員会の紹介【自己紹介】
　　野口先生・北原様・中野様・小林様・大和様・廣橋様・ツボイ様・篠原さま・早川様・大力様・川口様・飯野様・
　　宇都宮様・井上様・吉田様・市場様・萩野様・荒木様・濱尾さま　以降学校
（6）役員選出
　　挙手なし　事務局推薦
　　会　　長：　玄海地区コミュニティ運営協議会会長　　中野　和久　様
　　副会長：　岬地区地域学校協働活動推進員　　ツボイ　ヒロシ　様　　拍手にて承認
2　説明・熟議
【説明1】令和7年度までの玄海学園の取組について
玄海東小　正路校長
・学校の教育水準の向上　配膳ボランティア・働き方改革の声掛け、子供たちが育つことが教師の負担軽減につながる。
・教育活動の紹介（スライド）
・学園のよさ、特色　昨年度の課題から→授業改善プロジェクトを設定する
・どんなことならできるのか考え、難しいことではなく一緒にやっていきたい
【説明2】令和8年度の玄海学園の取組について
（1）令和8年度「学園経営要綱」ならびに学校関係者評価について
（2）令和8年度「玄海学園運営協議会年間計画」について
玄海小　福田校長
　・「子供たちの笑顔と未来のためにできること。」活躍：感謝（地域貢献）
　・昨年度のアンケート結果から新たな「ラブ玄海プロジェクト」を検討していく。
　・共育目標　「やればできる～参画　9年間で自信をはぐくみ安心」
　・3つの居場所　8つの工夫　　わかりやすい・参加しやすい・安心して学ぶ環境
　・学びの定着　　自他を大切にし役立つ挨拶地域ボランティア　居場所の完成
　・年に1回、学校関係者評価を設ける。
【熟議】
「令和8年度玄海学園の取組と令和7年度学校関係者評価から見える課題について」　　昨年度の評価と今年度の子供たちのスマホ利用について、近くの方と情報交換・共有

【　まとめ　】　16:20～16:30

○　福岡教育大学大学院　特任教授　　野口　博明　様

第1回　玄海学園運営協議会　熟議　議事録

2026.6/9

1	2	3グループ
○　中学生はほぼ利用している。使用時間が長い。２・３時間画像を見ている。勉強が手につかない。自分を律することが難しい。生徒総会で「スマホ宣言」が否決された。スマホ宣言の説明がうまくできていなかった。一人１台スマホを持っている状況だ。家族の中でもばらばらになっている。○使い方・使う時間・自分に役立つ手段になる。○生徒会で「スマホ宣言」の内容を再検討する。スマホを利用する時間を考える。小学校は、親次第。家庭のルール作りが必要では。中学校では、職員室にスマホを預けるルールになっている。イメージは、使い方を考えてもらう。先を見越したスマホの利用を考えさせる。保護者と学ぶ規範意識講演会では、来てほしい保護者が参加していない。家庭のルール作りが大切！(子どもたちの安全を守るため、子どもたちが安心してスマホを利用することができるため)、親にこの使い方はまずいぞと思ってもらう必要がある。	○　どんな内容でグループ ＳＮＳかスマホを持っていることか 物理的に制限はできるが、大人もやっているなか制限をかけることも難しい 自由な環境になった時に大変だからある程度慣れておくことも大事 食事中・入浴中もスマホが離せない 身近にある危険性と触れさせないことの弊害 （ツボイ）どうして怖いのか、納得させないといけない（脳、体等） →学校に要望＝危険性を教える小冊子など具体的に伝えるものを配布するのは？ （篠原）事件でもないと危機感がない （福田）学年で年1は情報モラル学習を行っている →回数を増やす・対象を広げる （廣橋）ゲーム動画をずっと見るなど大人は理解できない中毒性がある。 だからこそ （大力）孫がずっとやっていて叱った。刺激が強いから惹かれる。自然に触れさせることでスマホから離れられた。 →子どもが体験すること経験の機会を設けること。 大人がスマホに子守をさせている、それが問題 （ツボイ）なくすことは無理だから、少しでも減らせるよう。SNSの危険は何度も繰り返し伝えないといけない。 時間的な怖さだけでなく、だまされるなどの直接被害、または加害者になる可能性などの危険が学年が上がるにしたがってでてくる。 （廣橋）リアルな人と接する機会を増やすとコミュ力が上がる。自分が傷つかないコミュニケーションだけでは子供は育たない。	・スマホに限らず、ネット環境に係る使い方が悪い。 ・子供たちどうしがネットゲームでつながっている。どうしても言葉遣いが悪くなる。 ・生徒総会でも、スマホの使い方に関するルールが提示されたが、否決された。 平成２６年に玄海中校区PTA小中合同ケイタイ・スマホ安全安心運動の掲示物について、ルールを確認した。家庭内でも、生徒だけでなく保護者もスマホをずっと見たりして、会話がないような場面もあるので、スマホの使い方を共に考えていく必要があるのでは。

【玄海学園のおける現状】
・春日市は早くから町を挙げてコミュニティ・スクールを推進し、カリキュラムマネジメントに取り組んだがコロナ渦で変化した。玄海学園はその中でたくましく続けている。
・本日のSNSについての熟議から、デジタルタトゥー、啓発動画の活用　や警察の話を家庭にもつなげたい。子どもが巻き込まれた時のことを考え対応、意識づけをしていた。
・モデル的な家庭を見せる。地域がするか、学校がするか。
・自転車の乗り方のように規則が変わる。
【活動改善の視点】
・学校・家庭・地域のそれぞれのポジションで何ができるかかんがえること
「学校」
・生徒会の働きがあった。生徒総会で否決されたが、それも一つの学び。失敗経験はよい。
・家庭と地域がいろいろなところに網をかけていく。授業のレベルでどう関わっていくかを考えて進めたい。
「家庭・地域」
・学校ができることは限られており、スマホを持つかどうかは家庭主体。
・禁止よりいい使い方を進める、一律でルールを作ることではなく、実態に合ったものを考えていく。
【改善の方針】
・地域と家庭による日常からの強い結びつきが垣間見られた。
・玄海東の運動会における中学生ボランティア
・地島小の積極的な挨拶。

・学園運営協議会での話題を持ち帰って、各々のホームで話してまた次の学園運営協議会に持ってきてほしい。